MIRAI
DISASTER REDUCTION AND HUMAN RENOVATION INSTITUTION

阪神・淡路大震災記念
人と防災未来センターニュース
Vol.2

発行／阪神・淡路大震災記念人と防災未来センター
URL／http://www.dri.ne.jp/

CONTENTS

- 特集１　人と防災未来センターオープン　P1
- 阪神・淡路大震災記念協会理事長に貝原氏　P3
- 人と防災未来センター資料室より　P3
- 特集２　災害対策専門研修　P4
- さまざまな声が寄せられました　P6
- DisplayPickup「震災の記憶をのこす」　P7

特集１

人と防災未来センターオープン！

●開館記念式典

平成14年4月27日、人と防災未来センターが一般公開されました。

これに先立ち、皇太子同妃両殿下をお迎えして、4月20日には開館記念レセプションが、翌21日には開館記念式典が執り行われました。式典の最初に井戸敏三兵庫県知事、村井仁防災担当大臣、矢田立郎神戸市長、石原信雄（財）阪神・淡路大震災記念協会理事長、河田惠昭センター長らによるテープカットが行われた後、慰霊のモニュメント除幕式が行われました。モニュメントは地震発生の午前5時46分を表すデザインで、井戸知事によって6,454名の犠牲者の名簿が納められ、皇太子同妃両殿下をはじめ、遺族代表らが献花を行いました。

阪神・淡路大震災記念
人と防災未来センター　開館記念式典

開館記念式典でお言葉を述べられる皇太子殿下

式典では、皇太子殿下が、「一瞬にして、多くの尊い命を奪った阪神・淡路大震災から、はや７年が経過しました。ここに、改めて亡くなられた方々に、心から哀悼の意を表します。私も、震災直後、犠牲者の方々の合同慰霊祭に参列するため被災地を訪れましたが、その時目の当たりにした被災状況から街が立派に甦り、将来への明るい展望が開け始めていることに深い感慨を覚えます。」と被災地の復興の模様に所感を述べられ、「人と防災未来センターが、震災の被災者を始め多くの皆さんに支えられながら、意義深い成果をあげられ、広く世界に貢献する防災拠点として大いに発展することを願い、記念式典に寄せる言葉といたします。」と結ばれました。

●開館記念シンポジウムを開催

また、4月23日には、同じHAT神戸にある県立美術館で記念シンポジウム「これからの災害に備えて－人と防災未来センターへの期待」が開催され、約200人が参加しました。

冒頭、センターの名称募集で最優秀賞の井端宗作さんらに井戸知事より表彰状が送られ、引き続いての基調講演では、河田センター長がセンターの役割について、「常時災害に対応できる、世界の防災の拠点として機能していく」と強調しました。

続いて、京都大学客員教授のケニス・タッピング氏が米国カリフォルニア州の災害対策を紹介し、「防災の基本は現場であり、そこでの取り組みを評価し、互いに防災対策を学習することが重要だ」と提言しました。

パネルディスカッションでは河田センター長をコーディネーターに、タッピング教授ら5氏が意見交換を行いました。

センターの上級研究員の室崎益輝神戸大学教授は、「このセンターは防災に関する科学技術を市民につなげる、媒介空間としなければならない」とセンターのあり方について抱負を述べ、内閣府参事官の水上淳二氏は平時のシステムが緊急時に機能する必要性を説くとともに、「市町に対する災害対策のホームドクターに。」とセンターへの期待を述べました。また、静岡県防災局長の田邉義博氏は、「センターでの資料映像を見て防災に万全はないと実感した。我々の防災マニュアルをチェックしてほしい。」と専門家の目に期待を寄せ、秋田県立大学研究員の渡辺千秋氏は、祭り等によって培われる、世代を超えた「きずな」の重要性を強調しました。最後に河田センター長は、「防災の拠点として少なくとも100年は活動する基礎を作りたい。」と未来に貢献する施設として歩むことを誓い、シンポジウムを締めくくりました。

●いよいよセンターがオープン

そして、4月27日、センターの一般公開が始まりました。初日には震災の日にちなんで先着117名に記念品を配りました。この日には1,268人の来館者がセンターを訪れました。

ようやく走り出した人と防災未来センター。修学旅行のコースの新スポットとしても注目を浴びており、神戸の新名所として発展していくよう、これからも職員一同、頑張って、この施設にスピリッツを注いで育てていきたいと思っています。

初日、開館時間から来館者で賑わいました

センターのシンボルマークができました

デザインコンセプトは、重なり合い躍動する人をシンボル化した図形です。人と人のつながりの大切さや、災害からの復興、さらに未来へ向けて産・官・学・市民が一体となって協働する様子を表現しました。

(財)阪神・淡路大震災記念協会理事長に貝原氏が就任しました

5月30日付けで、理事長に貝原俊民氏が就任しました。氏は阪神・淡路大震災発生時の兵庫県知事であり、大震災からの復旧・復興に全力を傾けるとともに、震災の教訓を風化させることなく後世に引き継ぎ、世界に向けて情報発信していくべく、当センター設立にも尽力しました。この度石原前理事長の後を受け、理事長に就任しました。

● 略　歴 ●

S31.4自治省入省
S55.6兵庫県副知事
S61.11～H13.7兵庫県知事（4期）
現在（財）阪神・淡路大震災記念協会理事長
（学）行吉学園理事長
（財）兵庫地域政策研究機構理事長

人と防災未来センター資料室より

阪神・淡路大震災の教訓を後世に伝えていくため、平成7年10月以降、(財) 21世紀ひょうご創造協会が、震災とその復興に関する資料・記録の収集・保存事業を開始しました。平成10年4月からは、(財) 阪神・淡路大震災記念協会がその事業を引き継ぎ、収集事業を継続するとともに、公開基準を検討してきました。

平成12年6月から約2年間、兵庫県による大規模な震災資料の調査事業が行われ、延べ約450人の調査員が、ＮＰＯ、各種団体・組合、復興公営住宅、事業所、学校、まちづくり協議会等を訪問して、ビラ、チラシ、ノート、メモ、写真、避難所で使用された物などの、いわゆる一次資料を中心に収集し、創造協会や記念協会で収集されたものを含め、約16万点の資料が収集されました。

2階：資料室

そして本年、4月27日に人と防災未来センターのオープンにあたり、収集されてきた資料を引き継ぎ、公開するにいたりました。センター2階の資料室では、阪神・淡路大震災に関連する資料（図書・紙資料・モノ資料・写真資料など）や、図書やビデオなどの二次資料約2万3000点を検索・閲覧できます。一次資料は3階の展示コーナーに展示されている他、3階、または7階の収蔵庫に保管されています。

これらの資料は、震災の様子や人々の想いを被災地内外の人や次の世代に「生の声」として伝えるために整理・分析しております。様々な視点から資料を解析することにより、新しい事実が発見され、今後の防災研究に役立てていきたいと考えています。

センター内に保存されている資料　（平成14年7月現在）

一次資料		二次資料	
ノート	481	図書	7,800
冊子	7,047	雑誌	12,556
ファイル	46,655	ちらし	1,064
一紙	78,697	地図	174
ホッチキス止め	11,770	新聞	201
クリップ止め	2,114	映像資料	213
紐綴じ	2,664	音声資料	28
写真	1,777	電磁媒体	54
ビデオ	528	マイクロフィルム	2
写真アルバム	904	写真	32
ポケットアルバム	1,650	ポスター	11
その他	5,639	はがき	10
		手紙	1
		その他	1,450
計	159,926	計	23,596

7階：収集庫1

7階：収集庫2

特集 2

平成14年度　災害対策専門研修

阪神・淡路大震災で兵庫県などが経験した貴重な教訓を活かし、近い将来予想される東海地震、東南海地震、南海地震、さらにそれまでに何度か発生すると予想される内陸直下型地震等の被害を軽減する一助とするために、人と防災未来センターでは、センターの主要機能の一つである「災害対策にかかる実戦的な人材の育成及び災害対策専門家派遣」の一環として、災害発生メカニズムはもとより、総合的・鳥瞰的な状況把握の視点など災害対応のトップとして必要な心得に至るまで、行政各部門各層における災害対応に必要な事項を網羅した研修「災害対策専門研修マネジメントコース」を実施することとし、このほどその概要を発表しました。

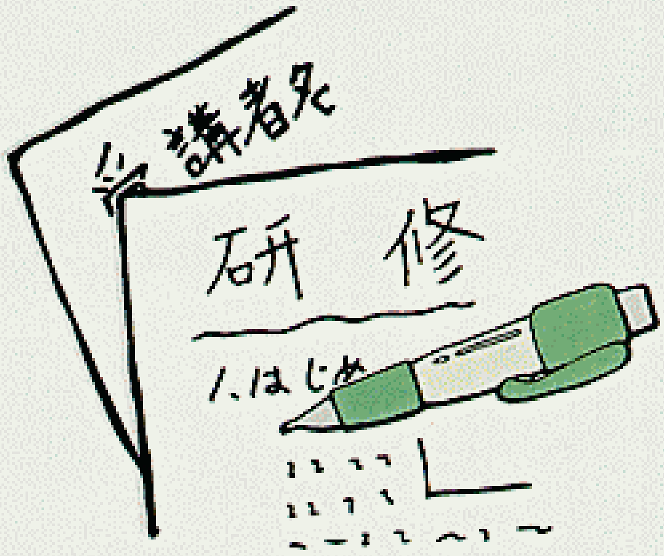
●災害対策専門研修の特色

①阪神・淡路大震災の教訓を踏まえた実戦的な研修

研修のあらゆる側面において阪神・淡路大震災の教訓を効果的に習得できる実戦的な内容で構成。

②巨大災害対策に必要な事項を体系的に網羅

災害発生メカニズムはもとより、総合的・鳥瞰的な状況把握の視点など災害対応のトップとして必要な心得に至るまで、行政各部門各層における災害対応に必要な事項を網羅。



③実務者と研究者の効果的な連携

被災自治体関係者、自衛隊、ボランティア当事者等の実体験をセンター上級研究員、専任研究員等のコーディネートにより実戦的なノウハウとして紹介するなど、実務者と研究者が効果的に連携。

④災害対応シミュレーターの活用

災害対応シミュレーター（次ページ参照）を活用した実戦的な研修を実施。

●コースの概要

マネジメントコースA	マネジメントコースB
政府関係機関、地方公共団体、公共機関の管理職員等、災害発生時の応急対応の指揮者となりうる者（都道府県、市町村の部局長等）を対象に、大規模災害発生時に各種の対応が同時進行的に展開する状況を横断的・総合的にとらえ、これに対処する能力を養成します。	コースAに準ずる者及び経験年数が浅い者等（都道府県、市町村の課長、係長等）を対象に、災害のメカニズムや阪神・淡路大震災の経験を踏まえた各部門のあり方等、コースAの前提となる基礎的な知識について体系的に学習します。

センターでは、本年度各コース２回ずつ開講する予定です。
このほか、研修に関する詳細は、センターのホームページ http://www.dri.ne.jp/ をご覧ください。

災害対応シミュレーターを導入しました。

●システム概要

災害発生時には、各局面において災害対策要員の迅速かつ的確な対応が求められます。しかし、災害は時と場所を選ばないため、平時から周到な準備をしておかなければ、発生時に情報が円滑に伝達されず被害全体の把握が遅れ、大きな混乱が生じることとなります。

このため、災害発生時と同じ切迫した状態を仮想的に作り出し、危機管理担当者が応急対策や対応行動を経験することが重要となります。

このシステムは、兵庫県フェニックス防災システムをベースとした各種の被害想定の下、演習参加者がパーソナルコンピュータを用いながら人命救助活動などの実際の行動や判断を行っていくシミュレーション研修を行うためのものです。

具体的には、演習参加者の役割分担を行った後、演習シナリオの時刻進行に合わせて状況が付与されます。各時点での状況データにより、とるべき行動を選択したり、災害マップを作ったりすることができ、行動履歴を評価するという流れになります。

●システムの特徴

- シナリオの作成により、地震以外の風水害等にも適用可能。
- 個別学習の他、グループでの連携演習も可能。
- マウスの操作で演習を進められる。
- 研修レベルに応じて、3段階の演習レベルの設定が可能。
- 演習の時刻進行を演習時間に合わせて設定可能。
- 講師から特定の研修生にアドバイスを送信可能。
- 行動履歴表示により事後評価が可能。

この端末で各自が演習します

開館から３か月、さまざまな声が寄せられました。

■ 来館者からの声

震災を体験して

今日、ここに来て、あの1月17日のことをすごく思い出した。ほんとにあの地震の時は、何が起こったのか分からなかった。しかし、今日、映像を見て、こういうことが起こっていたということが分かりました。家があんな状態でつぶれていくなんて、すごく驚きました。もう二度とこういう地震がないように祈っています。
（尼崎市　女性）

あれから7年がすぎ、今ではあの時のことを忘れかけていました。今日、センターで、あの時をふたたび感じる事が出来ました。胸が苦しくなり、涙が出てきました。でも、色々な人のやさしさ、強さで、今があるのです。あの時のあたたかいラーメンの味は忘れられません。
（神戸市　女性）

私もあの日を忘れません。今、親子3人、幸せな日々を送っていますが、亡くなられた方々、また、そのご家族を思い、胸が熱く、涙が出てきました。今後も多くの方々に見ていただき、少しでも防災に役立てたらと念じています。
（神戸市　女性）

心からまだ向き合えません。まだまだ気持ちが復興できません。震災後、何不自由なく生活できていますが…。震災後、初めて震災を思い出し、色んなことが思い起こされ、はじめて涙を流しました。
（神戸市　女性）

震災は体験してないけれど

震災は体験してないけれど震災を体験して　テレビ等でしか分からなかったことが間近に感じとれ、恐ろしさと悲しみで胸が一杯になりました。6年前、タンスが揺れただけの経験しかない私は、子供たちと一緒に考えたくてこちらへ来ました。きっと今日は子供たちにとっても良かったかもしれません。
（大阪府　女性）

あの映画、ぼくけっこう感動しました。その場面とは、最後にお姉ちゃんが「生き抜いて」といったところ。泣きそうになりました。また見たいです。
（石川県　男性）

私は、まだ地震の時は1歳になる前だったので記憶がないけど、そんなことがあったんだと本当に、すごく悲しく思いました。これからは、そんな恐ろしい地震がなかったらいいなと思っています。とても勉強になったと思いました。
（神戸市　女性）

初めて地震の恐ろしさが分かった。そんなに大きな地震を体験したことがなかったのでいい勉強になった。こんなことがもう二度と起きなければいいと思う。
（熊本県　男性）

地震のことはテレビや新聞で見聞きしただけでした。私自身、地震の恐ろしさは分かっていたつもりでしたが、実際の映像や体験した人の話はとてもリアルで、初めて本当に恐ろしさを実感しました。
（岐阜県　女性）

■ STAFF からひとこと

毎日、日本全国からたくさんのお客様が来館されています。1.17 シアターや、大震災ホールの映像をご覧になり、それまで声高にはしゃいでいた学生さんが、急に食い入るように真剣な眼差しをスクリーンに向けられる姿や、これまで胸の中にしまっていた想いを体を震わせ、私どもアテンダントに語ってくださる被災者の方の姿に、私たちも胸を打たれることがあります。

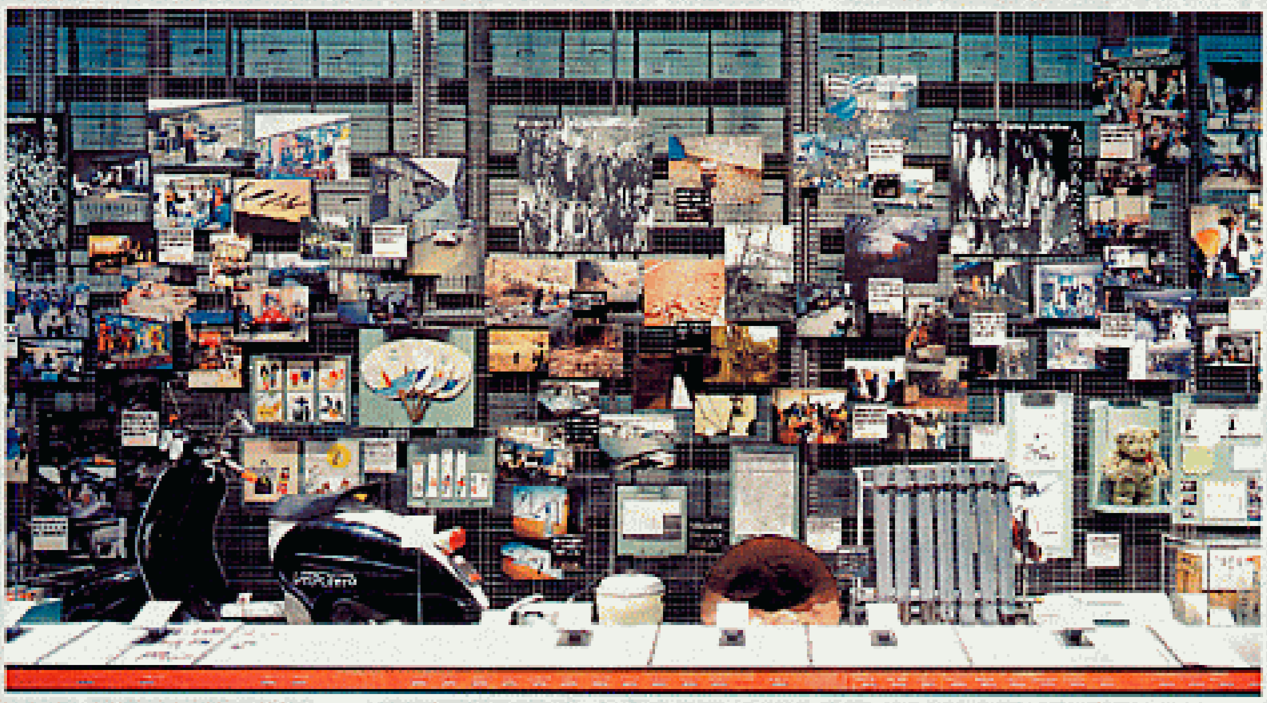
また、国内外からの多くの防災関連の視察者の方々に加え、将来を担う小・中学生のみなさんからの活発な質問もあります。そんな時、7年前のあの阪神・淡路大震災を忘れないということだけでなく、被災された多くの方の体験や想いが未来に活かされていこうとしていることを感じています。私たちは、この過去と未来を繋ぐ仕事を誇りに思っています。
（アテンダント）

センター開館以来、たくさんの方々にご来館いただきありがとうございます。私たち運営スタッフもさまざまなご質問に応対しながら、震災や当センターに対するお客様の関心の高さに改めて驚いております。今後ともより多くの方々に利用される施設にしたいと思います。よろしくお願いします。
（施設担当）

Display Pick Up シリーズ2

震災の記憶をのこす

センターの展示内容をピックアップして紹介するシリーズ。第2回目は、3階「震災の記憶をのこす」コーナー。この壁面には市民の皆さんのご協力により集積された16万点以上の震災関連資料が保存ケースに整理・収納されています。その前面には資料の一部を、資料提供者の体験談とともに展示しています。展示資料は、写真を中心に構成した壁面部、実物資料（立体物）や手紙やチラシなどの平面資料を展示するステージ部で構成しています。



（展示内容：写真500点、手記260点、実物資料70点）

災害を自らのリスクとして想像

災害で被災する可能性は全ての人に共通です。巨大災害によってもたらされるリスクを自分に置き換えて想像、認識することは、災害に備える一歩を踏み出すきっかけとなります。震災に対峙した市民の記憶や経験がここの資料には込められており、その記憶や経験を共有することを通じて、災害をより当事者の立場に立って想像できると考えています。

被災地の「コトバ」に導かれ

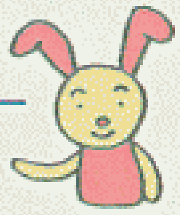
震災の経験は、被災地の一人ひとりが全く違ったものであり、ひとつとして同じものはありません。ここには多くの異なった災害の経験と思いが集積されています。そして、提供された資料が内在した思いを伝えるのは、カタチではなくコトバであり、さらにそのコトバの向こうにある「心」を思う、見る人の気持ちです。壁いっぱいの無数の震災市民のメッセージを受け止めて災害と社会、災害と市民に思いを馳せて下さい。

◆バーコードナビゲーター(B-navi)◆

展示資料や体験談等を紹介

震災資料に込められた思いや体験談を伝える文字情報や音声で引き出せる手のひらサイズのパソコンです。資料手前のバーコードを読みとって、その資料提供者の手記や体験談が資料に対応して表示される、世界で初めての新しい展示解説システムです。

INFORMATION



夏休みこども防災ワークショップを実施します。

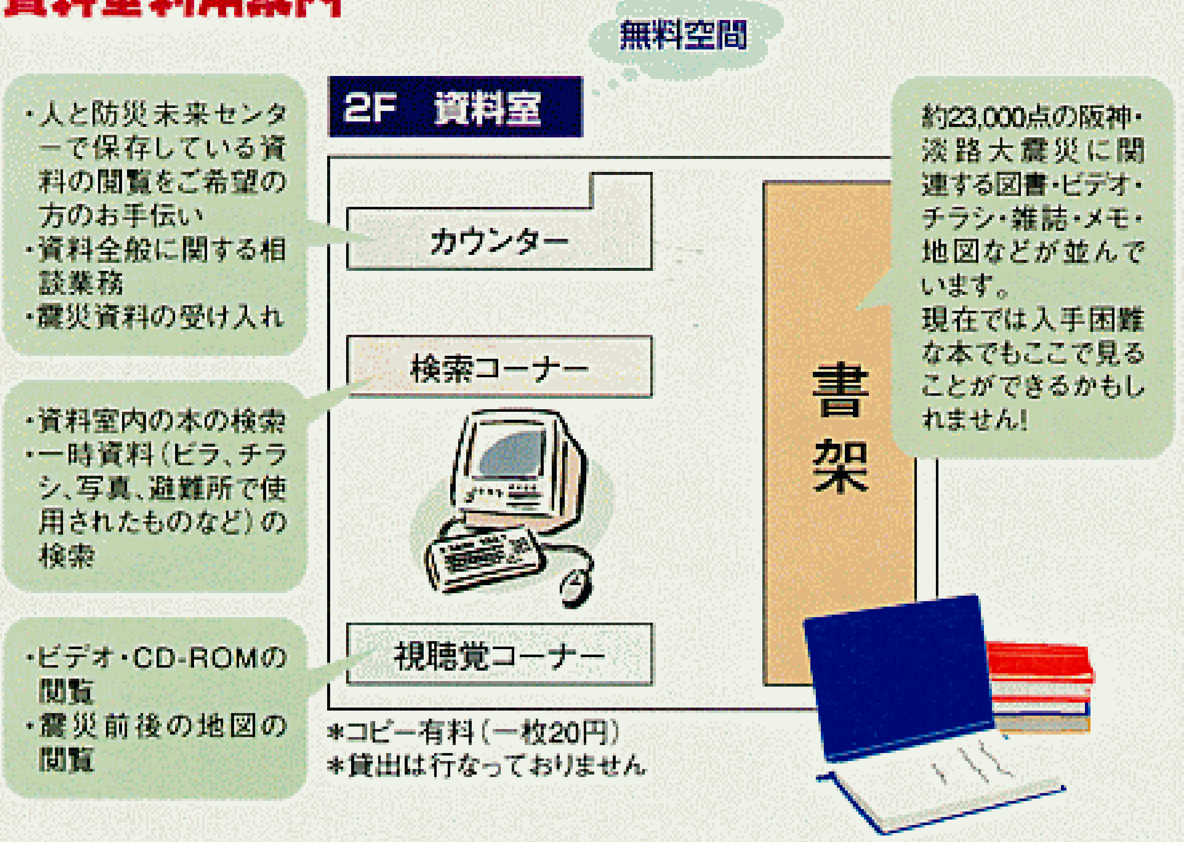
人と防災未来センターでは、夏休みに楽しみながら震災や防災の知識を身に付け、自由研究の宿題にも活用できるよう、夏休みこども防災ワークショップを実施します。

◆8月19日（月）午前／まちの防災探偵団になろう！　（小学校4年～6年生向／定員20名）
神戸のまちを自分たちで歩いて、防災のしくみを発見し、防災マップを作ります。

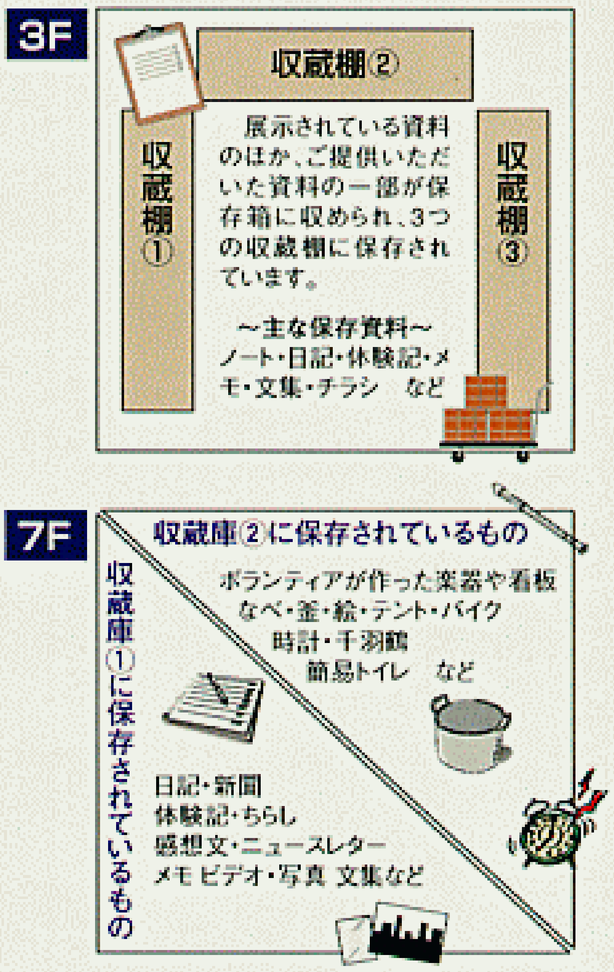
◆8月20日（火）午後／ペットボトルでかんたん液状化実験　（小学校4年～6年生向／定員20名）
身近な材料で簡単な実験をし、液状化発生のしくみを学びます。

◆8月21日（水）午後／世界災害調査隊　―HATからみえるアジア―　（小学校5年～6年生／定員16名）
HAT神戸に集う国際機関を訪問し、アジア各国の災害・防災・日本の貢献などを調べます。
・8月の毎土曜日、日曜日には小・中学生対象の防災クイズも実施されます。

資料室利用案内



＊コピー有料（一枚20円）
＊貸出は行なっておりません



開室時間　10:00～18:00
閉 室 日　毎週月曜日（月曜日が祝日の場合は翌日）12/29～1/3
電話番号　078-262-5058（資料室直通）

■お問い合わせ先

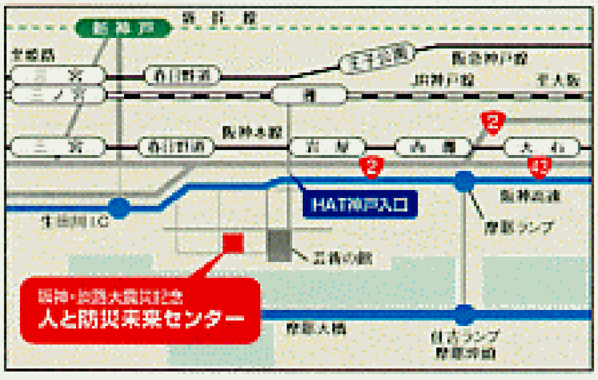
阪神・淡路大震災記念　人と防災未来センター

〒651-0073　神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2
TEL(078)262-5050（観覧案内）／(078)262-5060（事務局）
ホームページアドレスhttp://www.dri.ne.jp/

●開館時間／10:00～18:00（入館は17:00まで）
　※金・土曜日は20:00まで（入館は19:00まで）
●休館日／月曜日
　※月曜日が祝日の場合は翌日。12月31日、1月1日は休館
　※ゴールデンウィーク、夏休みの期間中は無休
●入館料金

区　分	個　人	団体（20名以上）
大人	500円	400円
高校・大学生	400円	320円
小・中学生	250円	200円

■交通マップ



●交通
鉄道／阪神「岩屋駅」から徒歩約8分・JR「灘駅」南口から徒歩約10分、
　　　阪急「王子公園駅」西口から徒歩約15分
バス／JR・阪神・阪急・神戸市営地下鉄「三宮駅」から約15分
　　　時刻表はホームページを参照して下さい。
車　／阪神高速神戸線「生田川ランプ」から約3分、阪神高速神戸線「摩耶ランプ」から約4分、阪急・阪神・JR「三宮駅」から約10分
●駐車場／有料駐車場（普通車100台駐車可能）
　　　　このほか近隣にも駐車場があります。

平成14年7月発行